



指揮棒の花束



西成区にある大阪フィルハーモニー会館では、朝比奈氏の活動の様子が収められた写真や、同氏が実際に使用した指揮棒や総譜などの物品も所蔵されている。所蔵品の一部は会館展示スペースで見ることができる。

岸里1丁目1番44号

とある演奏会の一幕、終演後にお客様をお見送りしていた私に初老の男性が「今日のんホンマに良かった、色々しんどかったんだけどな。救われたわ」と一言一言涙ながらに話しかけてくれたことがありました。こんな演奏家冥利に尽きることはなく今でも鮮明に覚えています。その演奏会は「西成区役所ロビーコンサート」でした。

大阪フィルハーモニー交響楽団
ヴィオラ奏者 岩井 英樹



©撮影：飯島 隆

こういつた方々の支えもあり100周年があると思うと非常に感慨深く感謝の気持ちでいっぱいであると共に、「ホンマに良かった」と言っていただけの演奏を区民の皆様や子供たちに届けられるよう、これからも邁進してまいります。



クリスマスロビーコンサート



出前授業でのコンサートの様子

区役所との関わりも強く、
2024年6月25日には音楽を通して
連携協定を取り交わしました。

演し、トリは桂かい枝さんの落語に演奏を加えるという何とも楽しい企画でした。

こうした積み重ねもあり、昨年、西成区と大阪フィルは連携協定を締結し、西成区の芸術文化振興の端を担わせていただく事になりました。近年、西成区政の柱として「すべては子どもたちのために」というスローガンがあります。区内小中学校で催す大阪フィルメンバーの演奏会は課外授業に発展し、音楽文化芸術の振興を通じて西成区が目指す「子どもの夢がひろがるまち」を、一緒に作り上げています。

これらの取り組みを通じ区民の皆様から多くの応援をいただくことができていることに、歴代区長はじめ職員の皆様に心から感謝申し上げます。

私事ではありますが、娘が通った幼稚園のPTA会長を務めた関係上、区役所職員の方

とも多くお知り合いになりましたが、どの方も西成愛が強いです。西成区の企画で友友良英

さんが講師を務めたフレイカープロジェクト「西成子どもオーケストラ」は学校で教えてくれない音楽、集団即興オーケストラという大変面白い企画で私も参加しましたが、職員で音楽愛好

家の故柴生謙「さん」も積極的に演奏に参加され、熱心に子供たちを盛り上げていらつやいました。とにかく、西成愛がす、い方が沢山いらつや

いました。

こういつた方々の支えもあり100周年がある

と思うと非常に感慨深く感謝の気持ちでい

っぱいであると共に、「ホンマに良かった」と言っ

ただける演奏を区民の皆様や子供たちに届



2018年4月より現在に至るまで、第3代音楽監督を務めている尾高忠明氏。国内の主要オーケストラに加え、ロンドン交響楽団等の世界各地のオーケストラへ客演。後進の指導にも力を入れ、東京藝術大学名誉教授、相愛大学客員教授、京都市立芸術大学客員教授、国立音楽大学招聘教授を務めている。

過去に第2代音楽監督、現在は桂冠指揮者を務めている大植英次氏。国内オーケストラに加え、ニューヨーク・フィル、ハンブルク北ドイツ放送等の海外オーケストラへ客演。また、音楽の普及活動にも情熱的に取り組み、大阪城西の丸庭園で実施された「星空コンサート」や、2025年に20年目の節目を迎える「大阪クラシック」のプロデュースなどを行っている。

1947年の戦後間もない頃に、大フィルの前身である「関西交響楽団」を設立した朝比奈隆氏。日本の音楽文化を復興させたいという思いから楽団を設立し、2001年に亡くなるまでの55年間、舞台に立ち続け、音楽界の発展と文化芸術の振興に力を注いだ。

大阪フィルハーモニー交響楽団（以下、「大フィル」という。）は、クラシック音楽界を代表する指揮者である朝比奈隆氏を中心に1947年に創設された日本トップレベルのオーケストラだ。戦後間もない頃に創設された大フィルは、音楽で多くの人に希望を与えることを目的として活動してきた。西成区から音楽が持つ素晴らしさを通して、文化芸術振興の波を広げる活動に取り組んでいる。



©撮影：飯島 隆

会館1階の展示スペースで見ることができる1972年の第100回定期演奏会で演奏された「マーラー／交響曲第8番『1,000人の交響曲』」の写真は実際に1,000人の演奏者が参加した圧巻の1枚だ。

